

第1号議案

2021 年度事業報告

I 組織活動状況

1. 通常総会

日時:2021年5月26日(土)13:00~15:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事: 理事長 吉岡春菜

事務局長 佐藤 抄

第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度決算報告

監査報告

第3号議案 2021事業計画(案)審議

第4号議案 2021年度予算(案)の審議

第5号議案 役員改選

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 臨時総会

日時:2021年12月20日(月)10:30~11:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事: 理事長 吉岡春菜

事務局長 佐藤 抄

第1号議案 定款変更

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会

(1)第1回理事会

日時:2021年4月28日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

・2021年度予算案について

・月次財務報告

・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2)第2回理事会

日時:2021年5月15日(土)15:00~17:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

・通常総会に付議すべき事項の審議

第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度事業報告

監査報告

第3号議案 2021年度事業計画(案)審議

第4号議案 2021年度予算(案)の審議

第5号議案 役員改選

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3)第3回理事会

日時:2021年5月26日(水)15:30~16:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・理事長、副理事長の互選の件
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4)第4回理事会

日時:2021年6月29日(火)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
- ・月次財務報告

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5)第5回理事会

日時:2021年7月29日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・事業責任者会議と理事会の分担について
- ・活動に関する特記事項報告
- ・職員給与体系に変更について
- ・月次財務報告

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6)第6回理事会

日時:2021年8月31日(火)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・Rika job 事業について紹介
- ・活動に関する特記事項報告
- ・月次財務報告

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7)第7回理事会

日時:2021年9月28日(火)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
- ・訪問看護ステーションプロジェクト(案)について
- ・月次財務報告

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8)第8回理事会

日時:2021年10月26日(火)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
 - ・新型コロナウイルス感染症濃厚接触者隔離施設プロジェクトについて
 - ・月次財務報告
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9)第9回理事会

日時:2021年11月25日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次財務報告
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10)第10回理事会

日時:2021年12月23日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次財務報告
 - ・2022年1月以降の組織案変更について
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11)第11回理事会

日時:2022年1月27日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次財務報告
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(12)第12回理事会

日時:2022年2月24日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次財務報告
 - ・東京事務局正職員(無期雇用)制度の導入について
 - ・カンボジア新病院建設プロジェクト(案)について
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(13)第13回理事会

日時:2022年3月24日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告

・月次財務報告

上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況

2022年4月1日現在の会員数

		2021年4月1日現在	2022年4月1日現在
正会員	医療者	398人	326人
	一般	201人	187人
	学生	27人	16人
	法人	51社	53社
正会員合計		677人・社	582人・社
賛助会員	個人・法人	401・社	315・社

4. 事務局

(1)2022年4月1日現在の事務局体制

◇東京事務局(本部) 事務局長以下のスタッフ22名
(事務職員21名+パートタイム・経理顧問)

事務局長 :佐藤 抄
事務職員 高橋 茉莉子(副事務局長/地域医療・国際緊急支援事業部長)
吉岡 春菜(Smile Smile PROJECT)
伊藤 和子(Smile Smile PROJECT)
山田 友恵(Smile Smile PROJECT)
印東 真奈美(Smile Smile PROJECT)
黒柳 諒(経営戦略室長)
杉山 智哉(管理部 部長/海外事業本部)
横山 菜々子(広報/支援者サービス)
宮田 理香(地域医療・国際緊急支援事業部担当)
堀 裕子(広報・ファンドレイジング部長)
伊藤 千晶(広報・FR/地域医療・国際緊急支援事業部担当)
岸 美貴子(広報・ファンドレイジング/WEB 担当)
渡辺 彬衣(広報・ファンドレイジング)
近藤 ゆふき(広報・ファンドレイジング)
上村 可南子(広報・ファンドレイジング)
中山 佳子(広報・ファンドレイジング)
富樫 陽子(地域医療・国際緊急支援事業部 地域医療事業担当)
佐々木 蓮(国際緊急支援事業コーディネーター)
岩田 剛(経理)
鈴木知美(グローバル人材育成事業部)

◇ミャンマー事務所 早坂 恭一(事業部長)
河野 朋子(専門医療活動事業担当者)
那須田 玲菜(DreamTrain 事業担当者) 他スタッフ47名

◇カンボジア事務所 佐藤抄(事業部長)
神白 麻衣子(医療活動責任者) 他スタッフ 90名

◇ラオス事務所 五十嵐まなみ(事業部長) 他スタッフ 4名

(2)総務・庶務事項

東京事務局

・東京事務局の移転

東京都台東区台東(最寄駅:秋葉原駅)から東京都台東区寿(最寄駅:蔵前駅)に2021年6月に移転。

・認定NPO法人格の更新

2021年は認定NPO法人格の認定の有効期間の5年目であったため、所轄庁である東京都による更新審査が実施され、無事更新が完了。

・バックオフィス系統での業務効率化

新型コロナウイルス感染症拡大後に導入した在宅勤務での業務簡便化を行うために、事務局の電話対応のクラウド化を実施(事務局不在でも担当がPCを介して電話対応することが可能)。また、2022年4月より会計部門のクラウド化(クラウド上の会計ソフトへの変更、申請段階の紙媒体の削減)の検討を実施した。

II 事業活動状況 / 海外

海外事業本部

1. 設置背景

これまでも海外事業本部(海外事業統括)は存在していたが、2021年10月より、同部署を本格的に始動。(1)海外事業の統括、伴走、(2)海外事業に置ける日本の窓口、(3)東京事務局と海外事業部及び、海外事業部間のコミュニケーションの円滑化を目的として設置。海外事業を横断的に管理監督し、3事業が一体となって活動が出来るように運営を行った。

2. 実績

1)総務

各海外事業の管理体制を把握し、課題点や大きな差異がないかを確認。職員や物品、臨床記録のデータベース化に取り組み、海外事業の全体像を把握できる様にした。

2)組織

海外事業部長のコミュニケーション円滑化を計るため、半期に1度の部長会議を実施。半期の反省と次半期への取り組みをシェアすることを行った。また、メンバーレベルにおいても、日本語話者の交流会などを実施し、ロイヤリティ向上に務めた。

3)採用

日本採用者と協同でフローを明確にし、特に海外駐在スタッフやボランティアの採用の取りまとめを行った。

年度内に置いては、下記の人数が現地で活動を行った。

☆21年度開始駐在者

- ・医師:17名
- ・看護師:17名
- ・助産師:1名
- ・栄養管理士:1名
- ・調理師:1名

- ・薬剤師:1名
- ・事務:3名

4) 広報/ファンレイジング

助成金についてを調査し、一覧を作成の上、適しているものがないかの検討を行った。また、海外向けの広報に力を入れ、International版Facebookページの更新や、英語サイトの更新準備等を行った。

5) 事業管理・計画

2025年度までの中期計画を策定。3事業間でもすり合わせを行い、ジャパンハートの海外事業が向かうべき先を中期的な視点から考え、共通認識を持つことが出来た。

ミャンマー

1. 医療活動

1) ワツチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・ワツチェ慈善病院と提携先のティーサウン病院およびヨワガン病院にて、外来 5,710 件および手術 705 件を実施した。
- ・ヤンゴンの2つの僧院へ、医薬品および衛生用品の寄付を定期的実施

2) 専門家による手術ミッション(手術活動)

- ・新型コロナ感染症による渡航制限のため、日本人専門医療チームの派遣はなし。
- ・口唇裂および口蓋裂の手術指導用テキストの作成

3) 小児心臓病サポート活動

- ・新型コロナ感染症による渡航制限により、日本人専門医療チームの派遣はなし。

4) 透析サポート活動

- ・透析施設建設に向けた調査・検討を継続した。

2. ミャンマー医療人育成活動

- ・新倉会の協力のもと、奨学生9名(医学生4名・看護学生5名)の支援を行った。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・新たに児童を6名受け入れ、在籍人数は合計107名である(2022年5月時点)
- ・21名が施設を卒業
- ・支援企業・団体の協力を仰ぎ、オンライン学習・イベントの充実を図った。提供されたプログラムには、受験対策を行う学習塾・サッカー教室・ラグビー教室・語学教育・リコーダーの授業・プログラミング教室・オンライン理科実験教室・オンラインでの里親様交流会などがある。
- ・初級者から上級者までのレベルに対応した日本語学習支援を継続し、16名が学習を継続中。団内の外国人スタッフらによる「日本語話者交流会」にて、自らの生い立ちや Dream Train について、日本語でプレゼンを行った子どももいる
- ・学校は、情勢不安と新型コロナウイルスの影響により、休校と再開を繰り返す不安定な状態であった。学力維持のため、専任講師による定期授業や補講を用意し、切れ目のない学習を行った。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

・新型コロナウイルスの感染予防策として、チーミンダイ盲学校が閉鎖されたため、また、不安定な政治状況の煽りを受け、医療マッサージ習得のための1年コースおよび、日本から専門家を招聘するセミナーは実施できず。

・その中で、知識の習得とアップデートを行うため、定期的にオンラインセミナーを開催した。医療マッサージの技術論やマッサージ店の経営について、都度専門家を招聘して講義を実施した。参加者からは、非常に好評であった。

3) サイクロン孤児支援活動 (*2008年にミャンマー南西部を襲ったサイクロン「ナルギス」)

・24名の子どもへの教育・医療面でのサポートを実施した。

カンボジア

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター

2016年度に開業した病院を、2018年度に拡張し、小児診療部門を強化した。同年8月に小児がん治療を開始以降、カンボジア国内全土からがん患者が集まり、治療を受けている。2020年度に引き続き2021年度においても新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、毎年日本から短期で訪れ、医療活動を行っていたボランティアが渡航困難だった。また2021年度は2020年度よりもカンボジア国内での感染が拡大し、患者の来院数自体にも大きく影響。当院でも数回院内感染が発生した。その結果、日本人の渡航だけではなく現地での医療活動そのものも制限することになった。

ただ、従来提供していた治療の現地スタッフでの継続に加え、職員の感染対策やクラスター発生時の勤務体系など困難な環境が続いたことで、現地医療者の技術向上に加え、病院の運営や感染対策など医療技術以外の面でも大きく成長が見られた。2021年度のジャパンハートこども医療センター診療実績は表1のとおりである。新型コロナウイルスの拡大や院内感染の発生により、治療実績は大きく減少している。

表1. 2021年度 診療実績

	2021年度			2020年度		
	成人	小児	合計	成人	小児	合計
外来診察件数	9,645	1,629	11,274	14,932	2609	17,541
手術件数	376	84	460	772	221	993
妊婦検診件数	1,317		1317	3,499		3,499

小児がん治療においては、今年度の新規入院患者数は64名と、昨年度の85名からは減少したもののコロナ禍以前に比べると多い。昨年同様小児がんの患者数が増加した理由は下記の3つが考えられる。

1. 渡航制限により、患者がカンボジア国外で治療を受けることが難しくなった

カンボジアでは難しいとされていた小児がん治療は、これまで多くの国民が隣国のタイやベトナムの病院で治療を受けていた。しかし新型コロナウイルスの世界的流行にともなう感染拡大で渡航が難しくなり、国内での治療を求め多くの患者が当院を受診した。

2. カンボジア国内で唯一小児固形腫瘍の治療を完結できる病院となった

カンボジア国内には当院が治療対象としているがんを治療できる医療機関がもう一施設あったが、2020 年度に治療の受け入れを停止した。結果、国内で小児固形腫瘍を治療できるのが当院のみとなり、一層患者が集中した。

3. カンボジアのインフルエンサーによる発信

カンボジアで人気の SNS で多くのフォロワーを抱えるインフルエンサーが当院の医療活動を全面的に応援し、当院を紹介する投稿を定期的に行ってくださいました。当院の小児がん患者家族の数名はこのインフルエンサーの呼びかけにより来院することができた。

2021 年度の小児固形腫瘍(腎芽腫、肝芽腫、神経芽腫等)の新規入院患者数は 64 名と前年に引き続きコロナ禍前よりも多い状況が続いている。2019 年度は、連携している日本の 5 つの医療機関(大阪大学、鹿児島大学、九州大学、慶應義塾大学、岡山医療センター)から小児外科専門チームを招聘し実施していたが、渡航が困難となった今年度は最高顧問吉岡が計 3 回カンボジアに渡航し、計 35 例もの小児がん手術を実施した。また、長期ボランティアの小児外科医が 2021 年 4 月より常駐しており、吉岡がの渡航して手術を行うだけでなく、現地スタッフのみで可能な手術範囲が拡大した。

ジャパンハートこども医療センターに勤務する職員数は表 2 の通りである。

表 2. 職員数(2022 年 4 月現在)

	医師	看護師	助産師	コメディカル	非医療系職員	計
日本人	8	13	4	0	9	34
カンボジア人	11	29	5	2	33	80

コロナ禍による日本人の受入制限も解除に向いつつあり、中期～長期で活動する日本人の数が 11 名増えた。カンボジア人スタッフの人数は 1 名増とほぼ横ばい。

2) 農村部への巡回診療活動

2021 年度は 2020 年度と比較するとカンボジア国内における新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、巡回診療活動を実施することが困難であった。2021 年 11 月頃より活動の再開に向けて協議を開始し、2022 年 1 月から少しずつ活動を再開している。2022 年 1 月～3 月の期間にモバイル外来診療を 3 回実施し、延べ 160 名の患者の診療を行った。ジャパンハートこども医療センターと同じ地区内にある各ヘルスセンターへの出張も再開し始めており、栄養、母乳育児等についての講習も 5 回実施した。

3) 栄養管理事業

2019 年 10 月より運営を開始した給食センターでは入院している全 33 名(2021 年 3 月末現在)の小児がん患者を対象に年中無休で衛生的な食事を提供している。また、栄養士の指導の下、各小児がん患者の栄養状態や喫食率をアセスメントし、病状に合わせた食事を提供している。2021 年度は、カンボジア人栄養士が入職したこともあり、アセスメントの精度が上がりより細かい食事改善が行えるようになった。また、院外におけるカンボジア人への栄養教育も実施が容易となった。病院に勤める職員へも安全で栄養バランスが考慮された食事を提供し、万全なコンディションで医療に携われるようサポートしている。現在日本人栄養士 1 名、カンボジア人スタッフ 6 名で運営している。

2. 医療学生支援活動

2020 年度は、カンボジアプレイベン州内の 5 つの高校から奨学生を募集し、5 名(医学部生 2 名、看護学部生 3 名)の候補を選抜したものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、大学入試の実施が延期されていることに伴い、里親とのマッチングも延期となっていた。その後 2021 年 6 月に入試が行われ、全員合格し 2021 年 7 月より支援を開始した。結果として 2020 年度は入試自体が行われなかった為、2020 年度の奨学生は 2021 年度の奨学生となった。

在籍奨学生は計 20 名(医学部生 14 名、看護学部生 6 名)となり、日本人里親に支援を受けながら通学している。また、2021 年度に看護学部生 2 名が大学を卒業し、看護師としてジャパンハートこども医療

センターにて勤務を開始した。この 2 名の卒業生を含む本奨学金事業の卒業生は、累計医師 4 名、看護師 13 名となった。

ラオス

1. 医療活動

- ・ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療プロジェクトについて、コロナ禍での医師の渡航が叶わなかったが、現地医師が執刀医と助手を務め、日本からは認定医の遠藤俊治先生、河内順先生に遠隔指導いただく形で 5 件の手術を実施する事ができた。その後、プロジェクトの予算が残っていたことから、MOU 延長を申請。承認が降りる3月中旬までの期間、内科診療活動については現地医師と看護師主導で、MOU コロナの影響によりウドムサイ県病院の外来診療が一切停止になる 10 月末までに 336 名、1 月の外来再開から 3 月末までに 248 名の診療を行った(再診含む)
- ・パークグム郡病院においては手術室稼働プロジェクトを推進したいと考えていたが、年度の前半時点で話し合いをするも、助成金申請にあたり先方の協力が得られず申請ができなかった。また後半はパークグム群病院がヴィエンチャンのコロナ患者受け入れ病院となったことで関係者が多忙を極めたことから、話し合いの場を設けることができなかった。
- ・個人診療では、2 名のサポートを継続している。1 名の斜顔裂の女兒については訪問の上、執刀を担当する藤岡正樹先生に情報を共有。今後の手術方針、予定を詰めていく。もう1名のランゲルハンス細胞組織球症をもつ女兒については 2021 年 5 月以降、緩和ケアを継続している。

2. その他・広報活動

ラオス事業部でアカウントを持つ Facebook と YouTube の定期投稿を継続している。2 月には在ラオス日本国大使館主催のイベントに参加し、団体の活動を紹介した。

地域医療支援・国際緊急救援事業

2021 年度は、国際緊急救援事業においては令和三年8月豪雨災害を受けて佐賀県での支援活動を実施したことに加え、新型コロナウイルス感染症対策として①クラスター施設等への医療チーム派遣、②物的支援、③濃厚接触者隔離施設の独自運営を開始した。また、地域医療支援事業として RIKAJob の派遣者数増加に関する施策を実施。

1. 組織内部強化

- 1.1. 2021 年 11 月に常勤職員2名採用に加え、人材育成事業部と兼務であった常勤職員1名の転部により、事業責任者 1 名・ロジスティクス 1 名・看護師 3 名の計 5 名体制となった
- 1.2. 2022 年 1 月より、グローバル人材育成事業部に所属していた RIKAJob 事業を吸収し、「地域支援・国際緊急救援事業部」として組織体制を変更。RIKAJob 事業担当者 2 名を加え計 7 名となった

2. 自然災害時医療チーム派遣

令和三年8月豪雨災害を受け、8 月 18 日より先遣隊を派遣し、9 月 5 日から 17 日まで佐賀県大町町で他団体との協働のもと在宅避難者の健康観察を目的とした巡回を実施した他、武雄市保健所との連携を行った。撤収までの派遣者数は、看護師 2 名、調整員 2 名の計 4 名。

3. 新型コロナウイルス感染症緊急救援

人的支援

2021 年 4 月以降、2022 年 3 月末までに、全国 117 件の医療機関/施設に看護師を中心とする医療チームの派遣を実施した。派遣先では、コロナ病床やクラスターとなった機関の欠員補填に

加え、感染制御のための PPE 着用やゾーニングに関わる指導等、多岐にわたる活動を継続している。なお、2020 年の人的支援開始以降では、15 都道府県の累計 156 件に対してのべ計 400 名を派遣した。

物的支援

(1)2021 年 2 月にアクセンチュア株式会社と共同開発した寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」では、累計 134 件のマッチングが成立した

(2)コカ・コーラ財団からの支援を受け、全国に新型コロナウイルス感染症対策として感染防護具(特にアイソレーションガウン及び N95 マスク)を寄贈。2021 年 3 月末までの交付数は、全国 121 件の医療機関/福祉施設に対してガウン約 76,000 枚、N95 マスク約 20,000 枚となった。

濃厚接触者隔離施設

2021 年 11 月より、沖縄県宜野湾市に濃厚接触者隔離施設を開設した。これは、介護が必要な新型コロナウイルス感染症濃厚接触者が、クラスター施設ないし自宅に取り残されてしまう課題に対して、感染症対策の文脈では行政や医療機関の介入が難しい背景を受け、濃厚接触者自身の安全性を守ること、介護者の負荷を減らし感染拡大を防ぐことなどを目的として独自に開設。2021 年度中には、5 名の濃厚接触者の利用があった。

感染対策指導

濃厚接触者隔離施設の開設後、施設設備を使って沖縄県内の施設に対する感染対策指導セミナーを実施した。2021 年度中には、17 施設 36 名の看護師/介護士が参加した。

4. iER ボランティア登録制度

更新制度の変更

2022 年 1 月より、iER ボランティア登録者の更新制度を変更した。2017 年 6 月の初回研修より、新規登録後 2 年経過時に更新研修を受講する仕組みであったが、新規登録後 2 年経過時に研修受講料相当の更新料を支払った上で向こう 2 年間に研修を何度も受講できる形式とした。結果として、2021 年 3 月末時点での有効ボランティア登録者数は計 125 名。

新規登録数

- ・第 7 回研修(6 月 26 日(土)7 月 3 日(土))東京会場 13 名、オンライン 23 名
- ・第 8 回研修(12 月 11 日(土)~12 日(日))オンライン 11 名

既存登録者ステップアップ研修

2021 年度より、既存登録者向けの更新要件も満たす研修を開始した。医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年 2 回(計 4 回)実施予定

- ・医療ステップアップ研修(2 月 27 日(日))オンライン 23 名
- ・ロジスティクスステップアップ研修(3 月 17 日(木))東京会場 16 名

5. 国内外ネットワーク作りと強化

自治体との協定

2021 年度に沖縄県との災害時包括支援協定を締結。2020 年度に熊本県と締結したものと同様、大規模自然災害・感染症拡大時における将来的な支援ニーズが発生した際、より迅速な対応を可能とするもの。

学会発表

2022 年 3 月 3 日(金)~5 日(土)にかけて、日本災害医学会で 2 本の口演実施と 1 本のポスター演題発表を実施した。

6. RIKA Job

2018年度に立ち上げたRIKAjob事業は、国内離島・僻地で課題となっている看護師不足に対して、人材支援として看護師の紹介事業を実施。2021年度は20病院との提携があり、各病院の必要派遣者数を補えることを目標とし、広報活動に従事してきた。

派遣状況

2020年度 45名
2021年度 68名
※2021年度までの総派遣人数 延べ 439名
(延べ人数には国際看護師研修生、アドバンスドナースの僻地離島活動を含む)

看護師募集の強化

- (1)オンライン個別相談会の実施
- (2)RIKA説明会の実施(年2回)
- (3)各病院の情報をまとめRIKAjobのHPからダウンロード実装
- (4)RIKAjobの資料をダウンロードした方に対してメールマガジン配信

契約期間の延長のための取組

- (1)契約期間を延長するため、勤務開始1か月の看護師を対象にオンラインフォロー面談を行う。
- (2)3か月に1度吉岡秀人と奄美群島にある島を訪問し、派遣者のフォローを行う。

II. 事業活動状況 / 国内

SmileSmilePROJECT(SSP)

昨年に引き続き、多くの企業から事業への寄付、協賛イベント実施のご相談をいただき、コロナ禍で可能な限りの感染対策を実施し、安心してご家族に事業を利用していただくことができた。

1. 協力企業との協働企画を実施

昨年度から感染症対策を講じながらイベント実施をする経験を積み重ね、10件の招待イベントを実施することができた。

①6月 ハウステンボスご招待企画

新日本製薬株式会社の協賛で九州にお住まいの小児がんと向き合うご家族7組をご招待した。新日本製薬株式会社の社員さま、SSPサポーター、支援を検討されている企業の社員さまにもボランティアとして参加していただいた。

②6月 キッザニア甲子園ご招待企画

大阪西ロータリークラブの協賛で、6組のご家族をお迎えして実施した。

③10月 ヴィーガンスイーツ体験ご招待企画(2回に分けて実施)

8ablissのご協力のもと、協和発酵キリン労働組合からのご支援で4組のご家族をお迎えして2回に分けて実施した。それぞれに食事制限や治療の影響による味覚変化があり、日々の食生活に悩みや課題がある中で、「シェフにアドバイスをもらえてためになった」「たくさん食べる様子を久々に見ることができて嬉しかった」「スイーツを実際に作る体験を通して食へのイメージの変化があった」などの声をいただいた。

④10月 ユニバーサルスタジオジャパンご招待企画

シスメックス株式会社の協賛で、7組のご家族をお迎えして実施した。初めてのイベントであったが、普段から信頼関係がある企業と協働することで、広い会場内でも大きなトラブルなく実施することができた。

⑤11月 鹿島アントラーズサッカー感染ご招待企画

大和証券の協賛のもと、鹿島スタジアムで実施されるホームゲームに2組のご家族をお迎えして実施した。感染症の影響で参加を心配されるご家族からキャンセルが相次いだ。大和グループのグループ会社である KASSAI の投げ銭システムを利用してこの試合をチャリティーマッチとして一般のお客さまから投げ銭を受けつけ、選手のユニフォームなどのグッズ購入を通して寄付を募ってくださり、1,432,590 円のご寄付をいただくことができた。

⑥11月 キッザニア東京ご招待企画

クオンタムジャンプ株式会社の協賛で、5組のご家族をお迎えして実施した。今回は医療的ケアが必要なお子さまの参加は少なかった。感染症対策により安心して参加いただくことができた。

⑦ 2月 ピューロランドご招待企画

協賛はなく、SSP サポーター2名、カメラ担当1名で3組ご家族をお迎えして実施した。この時期も感染症の影響で参加を心配されるご家族からキャンセルが相次いだ。無事に実施することができた。

⑧ 2月 キッザニア甲子園ご招待企画

シスメックス株式会社の協賛で、4組のご家族をお迎えして実施した。感染症の影響で2組のご家族が参加をキャンセルされた。館内は今までになく空いており、どのお子さんもうりたいたいお仕事を体験することができた。

⑨ 3月 コーヒーセミナー

シスメックス株式会社の協賛とタリーズコーヒージャパンの協力で、3組のご家族をお迎えして実施した。いずれも京大病院で同じ時期にご入院されていたご家族で、同窓会のような雰囲気の中でコーヒーとお菓子を楽しんでいただくことができた。

2. 個別企画への対応

- ・個別企画は感染症の動向に配慮しながら、ニーズに合わせて実施し、合計33組のご家族を希望の場所に医療者同行のもとお連れすることができた。旅行準備をしていた3組は急変のために事業実施の前に逝去された。感染症の影響なのか不明だが、限られた時間のなかでご依頼をくださるご家族や医療者が多く、間に合わなかったときのスタッフの喪失感や残念に感じる気持ちをできるだけ言語化して共有する時間を作りながら次の対応をせねばならず、スタッフ数の確保が課題であると感じた。

3. 広報活動

- ・2020 年度に改定予定であったパンフレットだが COVID-19 の影響と現状の在庫を使用してから回転することとし、引き続き 2021 年度も延期とした。
- ・小児がん拠点病院15箇所のうち、13箇所と顔の見える情報交換をできるようになった。
- ・企業の SDGs の取り組みの一環で社内講演会を依頼されるケースが増え、複数の企業で実施。
- ・第8回ジャパンキャンサーフォーラム(10月、認定NPO法人キャンサーネットジャパン主催)、第13回H₂OサンタNPOフェスティバル(8月、阪急うめだ百貨店主催)、小児がん交流フェスタ2021(2月、国立成育医療研究センター)にてブース出展し、活動紹介をおこなった。COVID19の影響によりWEB開催や無人でのブース出展であり、一方向コミュニケーションのため活動紹介に留まった印象。

・活動報告会

2021年度の活動報告会をWEBで実施した。今回はケーススタディーを組み込むことで、まだ旅行の帯同をしたことのないサポーターの方にもリアルに準備として必要なことを考えていただく機会となり、大変好評であった。スタッフのみならずサポーター同士の交流の場にもなった。初参加者には活動を知っていただくこと共に、実際にボランティア参加していただいたサポーターやラブラファーマーにも体験をお話いただくことで、具体的なボランティア活動がイメージできたとの感想をいただいた。

- ・ボランティア説明会を定期開催し、活動に参加を希望する登録サポーター100名を目指したが、結果的には121名が登録。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

国際看護師研修・助産師研修

1. 事業実績

・参加状況

項目	2021	2020
国際看護師研修	13名 (54-57期)	18名 (54-57期)
国際助産師研修	2名 (3/4期)	3名 (2/3期)

2. 新規取り組み

1) 目標設定シート導入、定期的なオンライン面談の実施

団体の Vision/Mission/Value の設定に伴い、研修においても各自の目標設定シートを導入し、研修の目標設定、および定期的な評価システムを行った。また新型コロナウイルスにより海外研修が半年間中断したため、その間、オンラインを通じたコミュニケーションを定期的にとり、現地の情報提供などを行い、モチベーション維持に努めた。

2) 国内での国際緊急救援活動への人的貢献

新型コロナウイルスにより海外研修が一時中断したが、その間に 8 名の看護師が国内でのクラスター支援活動、及び九州豪雨災害の支援活動に参加し、即戦力として活躍した。

Ⅳ. 広報・ファンドレイジング事業

国際医療短期ボランティア

2020年4月より、国際医療短期ボランティア、国際医療ボランティアツアーとともに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、ミャンマーおよびカンボジアの渡航制限により、本事業の実施を停止した。再開については、各国の渡航制限の状況および外務省の安全ガイドラインに従い検討を行う。

広報活動

1. 支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1) 着任・受賞(2021年度)

- 11月 最高顧問吉岡秀人、東北大学特任教授(客員)着任
- 12月 第69回菊池寛賞受賞(最高顧問吉岡秀人、主催:日本文学振興会)
- 12月 第5回ジャパンSDGsアワード外務大臣賞受賞(団体として、主催:日本政府)

2) テレビ番組への出演(2022年)

- 1月 NHK-BS1、NHK-world「side by side」(カンボジアの活動紹介)
※NHK-world オンデマンドでも視聴可能
- 3月 吉岡秀人 最高顧問「最後の講義」NHK-BS1にて(全国放送)
※放送終了後、期間限定でNHK オンデマンドでも「見逃し配信」にて視聴可能
- 3月 副事務局長 高橋末利子「ひるおび！」出演(TBS系全国放送)
- 3月 看護師 宮田里香 「ひるおび！」出演(TBS系全国放送)
- 5月 吉岡秀人 最高顧問「最後の講義」再放送 NHK-BS1にて(全国放送)
※放送終了後、期間限定でNHK オンデマンドでも「見逃し配信」にて視聴可能

3) 書籍出版

- 12月 児童書 ふじもとみさと著「命を救う、心を救う」(佼成出版) 発刊
※同書は北海道、長野県、長崎県の読書感想文コンクール課題図書選定

4) そのほかメディアへの主な出演、掲載(2021-2022年)

- 10月 日本精神科病院協会機関紙 記事掲載
- 10月 朝日地球会議2021 パネル討論登壇、朝日新聞特集記事掲載
<https://www.asahi.com/eco/awf/>
- 2月 朝日新聞・Yahoo ニュース「国際小児がんデー」記事掲載
<https://www.asahi.com/sdgs/article/14548786>
- 2月 日本看護協会雑誌「看護」記事掲載
- 4月 雑誌「文藝春秋」吉岡秀人最高顧問 取材・掲載
- 4月 小学館「HugKum」 SmileSmilePROJECT 取材・掲載

<https://hugkum.sho.jp/354321>

- 5月 雑誌「佼成」 吉岡秀人最高顧問 エッセー寄稿
※その他クラスター支援などとして、各地メディアに登場
NHK 沖縄/琉球放送/神戸新聞/テレ東 BIZ ほか

5) AC ジャパン支援キャンペーン採択継続

2019年7月より引き続き AC 支援キャンペーンに採択され、テレビ CM 放送、新聞広告、電車の窓上・中吊り広告、駅貼りポスター、シネアド(映画館での CM 上映)での露出を行っている。AC 広告がきっかけでの寄付や問合せが増加したほか、法人企業においても AC の支援採択団体として、信頼できるというお声も頂いている。またクラスター支援に入ったエリアで、ニューズ等の報道を見た上、地元紙での AC 広告を見て、お礼として寄付をしたという事例、医療者向けボランティア説明会でも、応募の認知経路となっている例も報告されている。

6) イベント・その他展開

- 10月 銀座ファッションウィーク Chance Flower Walk 募金タイアップ
- 12月 セントフォース様とのクリスマスチャリティ実施によるファンドレイジング
- 12月 Amazon ジャパン様共同開発 Alexa スキル「声による寄付」
- 1月 児童書「命を救う、心を救う」読者中学生と吉岡秀人のオンライン座談会
※ジャパンハート公式 YouTube にてアーカイブ公開中

2. アカデミア(教育機関・学会)病院での団体の社会価値啓発活動

1) 吉岡秀人 主な講演実績(2021-2022年)

- 一橋大学ソーシャルイノベーションシンポジウム
※アーカイブ <https://logmi.jp/business/articles/326455>
- 芝浦工業大学附属中学高等学校
内分泌外科学会招待講演

大分臨海ロータリークラブ創立50周年記念講演 ほか

2)職員 の講演実績(2021-2022年)

松戸市立総合医療センター看護学校講師(国際看護)

日本医科大学看護学校(国際看護)

神戸学院大学(防災社会学)

明治大学(公共経営経営学)

敬愛大学(紛争地の現状 ※紀要掲載)

日本癌治療学会(患者協働ポスター発表 ※抄録掲載)

日本災害医学会総会・学術集会 一般演題/口演、一般演題/ポスター(抄録掲載)

内閣府「被災者支援に関する官民連携検討会」参加 ほか

3)教育機関の職場訪問、職員による学校講演会

世田谷区立瀬田中学校(職場訪問)

筑波大付属高校(職場訪問)

埼玉県立浦和第一女子高校(講演)

品川区立大崎中学校(講演)

湘南学園高校(グループ座談会)

島根県立松江南高校(講演) ほか

3. 吉岡秀人最高顧問等による全国後援会活動

オンライン及びハイブリッドを中心に、引き続き実施。

4. 報告会・説明会などの実施

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、引き続きイベントはオンラインにて実施、新型コロナウイルスに対する活動の説明会などを実施した。また離島・僻地医療の医療支援として、継続的に医師・看護師・コメディカルの相談会を実施している。

5. デジタルマーケティングの強化実施

1)オウンドメディア

自団体の web サイト、SNS(Twitter、Facebook、インスタグラム、YouTube)での発信を頻度を上げて実施。

2)WEB 広告:

Yahoo,Google の主要アドネットワークの露出、及び Facebook など SNS 上での広告を行った。

3)分析と効果最大化

Google アナリティクス、Google サーチコンソール、ヒートマップ(各無料版)にて、解析を実施、効率的運用を図っている。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーター(月額寄付者)獲得強化

財務状況の安定化を図るため、月額寄付者の増加を目指し、以下の寄付が価格帯を継続している。

1) 寄付金額:3000 円、1万円、10 万円の3つに限定。

2) ジャパンハート部: 月定寄付者に対し、特別コンテンツ等を発出するコミュニティを構築。サポーター限定の吉岡出演番組のライブ視聴イベントを実施、再校参加人数を獲得した。

3) アドバイザリーボードの活用: セントフォースとのチャリティなど、アドバイザリーボードによるチャリティ協力を引き続き行った。

2. 法人へのアプローチ

東京証券取引所の上場区分の再編を受け、各企業が社会貢献の CG 開示が必須となる中、日本政府主催の SDGs アワード受賞を追い風に、CSR の展開を検討している法人に対し、積極的にプログラムの

ご案内を行った。ジャパンハートSDGsマークを開発し、団体の取組の拡散協力企業との施策。法人格としての支援とは別途、法人内の個人としての従業員様に月定寄付を頂く仕組みのご提案など、企業の社会価値向上と協働する取組を開始し、新規法人支援開拓に繋げることができた。実際のご寄付につながった事案に加え、今後検討していただいている先には次年度も継続してアプローチしたい。

例)

1) ダイワボウ株式会社様からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、昨年度に引き続き、ジャパンハートに医療支援費として1億円をご寄付頂いた。

2) KDDI 株式会社様からのご支援

KDDI が「デジタルの日」に合わせて展開したプロジェクトにて、10月10日～10月31日の間に、au PAYでの支払い1回につき1円、au PAYマーケットでの買い物1回につき2円、「#auPAYで想いを贈ろう」のツイート1件につき1円を寄付する仕組みを構築、2,000万円のご寄付を頂いた。

3) Amazon ジャパン合同会社様からのご支援

日本のNPO発の試みとして、同社の Alexa スキルを通じた、声で話しかける寄付の仕組みを共同開発。開発協力と共に活動サポートとして、200万円のご寄付を頂いた。

4)米コカ・コーラ財団(The Coca-Cola Foundation)からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、クラスター支援活動費として、約1億4000万円をご寄付頂いた。コロナ禍で対応にあたる全国の医療関係者への、ガウン、マスク、フェイスシールド等のPPE提供などに活用した。

3. ふるさと納税の継続

前年度に引き続き、佐賀県に設置したジャパンハートとして事務所を通じ、ふるさと納税の取り組みを実施。寄付金額の90%がNPOの支援に充てられる取り組みとなっており、約8,800万円の応募を頂いた。

4. 遺贈への取り組み本格化

- 1)外部専門家に支援を受け、各ツール類の改訂、体制構築を開始。
- 2)大口遺贈含め1億3700万の遺贈を受領した。

5. その他

- ・制作物の作成・配布(年次報告書、春・夏・秋・冬ダイレクトメール、遺贈リーフレット)
- ・プレスリリース配信(週1～2本)
- ・メールマガジン配信(月2回)

経営戦略室

■戦略

1. 団体の中期的に目指す姿の策定

各事業の翌年度のOKR(Objectives and Key Results(目標と主要な結果))のみを策定するのではなく、長期的な視点で団体の目指す姿を策定した。

■財務

1. 前年を上回る経常増減額の確保

経常収益については予算を大きく上回る前年度と同程度の収益を達成。また経常費用についてもほぼ予算通りの費用となり、結果として前年度を上回る経常増減額となり、現預金も昨年よりも増額した。

■組織

1.全体会の実施

団体のビジョン・ミッション・バリューの浸透および事業間の職員のコミュニケーションの円滑化を目的に、ジャパンハートの日本人職員全員を対象とした全体会を新たに実施。各事業の目標および進捗の共有を行うことで、職員の目的意識を統一すると共に職員間のコミュニケーションの円滑化に寄与した

2.採用

複数の採用媒体を活用し、21年度全体で21名を採用(うち有給スタッフ9名、インターン・ボランティア12名)

支援者サービス

支援者サービス部門強化

マンスリーサポーター様や里親様へ報告および意見を伺う機会を作るため、イベントを定期的で開催した。また、アンケートやヒアリングを通して支援者様とのコミュニケーションを改善するための調査を実施した。お問い合わせ対応、領収書発行業務、活動報告の発信、感謝状の贈呈などの日常業務においては、更なる質の向上を目指した業務改善に取り組んでいる。

第2号議案

2021年度 決算報告

2021年度 活動計算書

税込表示

(単位：円)

2021年4月1日から2022年3月31日まで

科目	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	当初予算額
経常収益				
受取会費	20,544,003	18,709,007		17,610,000
受取寄付金	798,131,383	702,610,172	ダイワボウ情報システム(株)より昨年と同様1億円の大口寄付があった。他大口寄付として93百万円の遺贈寄付があった。また佐賀県ふるさと納税による寄付金が総額92百万円に達した	573,103,458
受取助成金等事業収益	52,045,760	205,559,917	日本コカ・コーラ財団より1億43百万の助成金を受領。残り約6千万円の凡そは、日本各地でのクラスター施設に対する医療支援活動に対する各都道府県からの助成金の支給	49,000,000
事業収益	23,681,507	34,972,256	主に長期看護師研修の参加費であり前年と比較して参加者が増加。ただし短期ボランティアの受入再開は行われておらずコロナ禍以前の水準には達していない	40,540,000
その他収益	6,749,045	26,241,334	円安ドル高で海外の外貨預金の評価額上昇による差益2,445万円。その他に受取利息169万円	0
当期経常収益合計 A	901,151,698	988,092,686		680,253,458
経常費用				
【事業費】	541,934,332	424,574,033		464,483,979
人件費	142,966,760	165,605,772	賃金引上げ、職員の増加による人件費増加	189,495,221
顧問・アドバイザー料	600,000	600,000	前年と同じくiER顧問料60万円	720,000
業務委託費	65,395,573	42,730,299	今年度の主な経費はクラスター対策診療応援日当3,536万円。前年度発生 of 外部広報コンサルタントへの委託料3,298万円が今年度は無いことにより経費合計は前年度より減少した	11,117,880
通信運搬費	4,956,577	5,048,820		3,533,880
医療器具・備品費	318,428	566,532	今期も少額の器具備品の購入のみ	1,745,000
医療支援費	22,106,365	28,811,705	医療事業拡張による全体的な費用増加	28,311,000
学業支援費	8,176,694	6,963,705	Dream Train202万円、夢の懸け橋410万円	11,784,825
子ども支援費	14,744,991	18,874,500	Dream Train 1,277万円 Smile Smile 537万円	17,560,500
旅費交通費	32,772,273	36,776,638		39,219,521
水道光熱費	5,992,588	6,043,174		6,800,000
広告宣伝費	35,208,758	31,912,118	公益社団法人ACジャパンの日本の心2021年度キャンペーン製作費2,000万円、Google広告料543万円、AMAZON DSP広告229万円	74,657,000
研修費	459,500	201,124		530,000
会議費	314,427	370,986	前年と同様コロナ禍で凡そオンライン会議	447,000
接待交際費	113,342	105,018		128,000
消耗品費	146,117,000	20,607,680	前年度マスク配布プロジェクト費用1億4千万円が本年度はなかったため	6,789,336
食材費	6,756,980	8,375,640	カンボジアの食材費765万円(187万円増加)	7,430,000
新聞図書費	30,113	29,006		55,700
印刷製本費	1,233,632	2,340,349	年次報告書印刷費75万円、印刷通販52万円、カレンダー36万円、ちらし22万円、リーフレット20万円	3,383,000
セミナー・イベント開催費	1,429,280	125,680		3,742,000
海外スタディツアー開催費	64,800	0	今年度はツアー開催なし	1,380,000
工事・修繕費	1,185,586	1,432,035	今年度も海外の少額の修理のみ	2,187,485
賃借料	3,145	5,258		45,000
地代・家賃	10,486,259	10,649,468		9,158,500
車両費	1,923,825	2,909,928		4,580,320
保険料	1,383,069	2,267,518	前年度は海外旅行傷害保険料減少。今年度復活	1,841,070
諸謝金	663,165	585,579	麻酔関係謝礼金48万円、看護研修講師料6万円	693,000

諸会費	73,461	158,819		116,361
リース料	0	192,700	沖縄濃厚接触者隔離施設支援用レンタルカー	50,000
支払手数料	1,387,995	1,231,788		7,728,380
雑費	1,070,144	617,632	PCR検査費用59万円(前年度は106万円)	128,000
寄付金支出	0	0		0
租税公課	376,038	834,653	カンボジア rental tax 58万円	826,000
期首書籍	1,316,545	1,246,221		
当期書籍仕入高	198,140	203,280		
期末書籍	▲ 1,246,221	▲ 1,021,247		
書籍販売原価	268,464	428,254		300,000
減価償却費	33,355,100	27,171,655		28,000,000

【管理費】	40,147,835	44,545,034		35,893,786
人件費	17,892,023	22,114,163	経営戦略室増員による人件費増加	21,006,090
業務委託費	5,706,644	3,526,019	前年度には、インターシッププログラム企画設計料187万円が含まれている	3,469,980
通信運搬費	1,021,709	885,672		832,272
水道光熱費	209,766	332,693		258,000
旅費交通費	22,258	42,332	前年に引き続きコロナ禍で移動が制限された	112,000
研修費	0	0		0
会議費	18,167	2,473	コロナ禍でオンライン以外の会議は凡そなし	0
接待交際費	1,944	0		10,000
消耗品費	2,451,610	2,137,581	東京事務局用パソコン代150万円	1,370,000
新聞図書費	0	0		0
印刷製本費	913,038	420,166	複合機パフォーマンスチャージ26万円	360,000
工事・修繕費	0	199,500	旧東京事務所退去に伴う修繕負担金	600,000
賃借料	0	0		0
地代・家賃	1,873,667	4,432,200	6月以降新東京事務所家賃389,620円/月	4,196,200
保険料	0	63,020	新東京事務所の火災保険料	0
租税公課	60,309	51,578		50,000
諸会費	290,000	125,000	国際協力NGOセンター正会員から賛助会員に変更	290,000
リース料	334,368	117,648	プリンターリース料。リース期間'22年6月で終了。以降以前の10%程度のリース料で再リース	306,528
支払手数料	8,898,562	8,848,826	ROBOT PAYMENTカード決済手数料623万円、新東京事務所礼金及び仲介手数料70万円、振込/海外送金手数料51万円	1,709,716
雑費	49,370	571,059	新東京事務所への移転に係わる費用48万円	70,000
減価償却費	0	558,334	新規購入した新東京事務所用のパーティション及び備品の減価償却費	0
為替差損	0	0		503,000
雑損失	0	1,170		0
租税（消費税）	404,400	115,600		750,000
当期経常費用合計 B	582,082,167	469,119,067		500,377,765

当期経常増減額 A - B	319,069,531	518,973,619		179,875,693
---------------	-------------	-------------	--	-------------

経常外収益

【経常外収益】	239,219	29,240,901		
固定資産売却益	239,219	29,240,901	カンボジアの土地売却益765万円及び2,075万円	

経常外費用

【経常外費用】	0	805,922		
固定資産売却除却損	0	0		
過年度受取参加費返金等	0	805,922		

税引前当期正味財産増減額	319,308,750	547,408,598		
法人税・住民税・事業税	70,000	70,000		
当期正味財産増減額	319,238,750	547,338,598		
前期繰越正味財産額	479,875,203	799,113,953		
次期繰越正味財産額	799,113,953	1,346,452,551		

令和3年度 貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
I. 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,015,331,224	
書籍	1,021,247	
前払費用	1,757,868	
立替金	229,484	
仮払金	198,853	
未収金	80,798,795	
流動資産合計		1,099,337,471
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
建物	184,891,635	
建物付属設備	28,550,841	
構築物	11,620,101	
車輛運搬具	6,254,842	
工具器具備品	24,853,073	
土地	406,029	
建設仮勘定	14,667,770	
有形固定資産計	271,244,291	
(2)無形固定資産		
マンガ-土地賃借権	17,517,610	
無形固定資産計	17,517,610	
(3)投資その他の資産		
敷金	2,134,558	
長期前払費用	402,904	
保証金	100,060	
投資その他の資産計	2,637,522	
固定資産合計		291,399,423
資産合計		1,390,736,894
II. 負債の部		
1 流動負債		
未払金	39,585,705	
預り金	4,513,038	
未払法人税等	70,000	
未払消費税等	115,600	
流動負債合計	44,284,343	44,284,343
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		44,284,343
III. 正味財産の部		
前期繰越正味財産		799,113,953
当期正味財産増減額		547,338,598
正味財産合計		1,346,452,551
負債及び正味財産合計		1,390,736,894

2022年3月期 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
 - ① 棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法を採用しています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産
定率法を採用しています。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
海外土地	49,652,707	0	49,246,678	406,029	0	406,029
海外建物	208,822,711	0	0	208,822,711	23,931,076	184,891,635
海外建物附属設備	34,180,021	1,313,571	0	35,493,592	7,248,038	28,245,554
国内建物附属設備	0	440,000	0	440,000	134,713	305,287
海外構築物	12,927,382	1,694,684	0	14,622,066	3,001,965	11,620,101
海外車輜運搬具	28,833,674	0	1,694,770	27,138,904	20,884,062	6,254,842
国内什器備品	172,410	198,495	0	370,905	255,114	115,791
海外什器備品	105,316,290	8,410,201	0	113,726,491	88,989,209	24,737,282
一括償却資産	715,214	0	0	715,214	715,214	0
建設仮勘定	2,381,030	12,286,740	0	14,667,770	0	14,667,770
無形固定資産						
ミャンマー土地賃借権	22,610,708			22,610,708	5,093,098	17,517,610
ソフトウェア	1,113,000			1,113,000	1,113,000	0
投資その他の資産						
敷金	2,048,358	354,200	268,000	2,134,558	0	2,134,558
保証金	100,050	402,914	0	502,964	0	502,964
合計	468,873,555	25,100,805	51,209,448	442,764,912	151,365,489	291,399,423

令和3年度 財産目録

令和4年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	1,015,331,224
手元現金	27,595,567
三菱UFJ銀行普通預金	31,515,083
三菱UFJ銀行普通預金	2,493,205
三井住友銀行普通預金	145,506,797
朝日信用金庫普通預金	29,628
ゆうちょ銀行普通預金	2,521,323
ゆうちょ銀行当座預金	551,329,788
ゆうちょ銀行当座預金	7,218,580
ゆうちょ銀行当座預金	978
朝日信用金庫定期預金	10,000,000
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.1	16,101,386
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.2	8,745,387
Foreign Trade Bank 6ヶ月 定期預金 No.3	11,015,100
Foreign Trade Bank of Cambodia ドル預金	39,997,641
Canadia Bank/of Cambodia	1,223
ABA Bank Payroll Cambodia	1,176,910
ABA Bank Cambodia	23,026,949
ACLEDA Bank Cambodia	4,269,965
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	8
三井住友銀行 ドル預金	110,045,359
BCEL \$ ラオス	679,215
BCEL KIP ラオス	637,792
BCEL KIP 寄付用ラオス	0
Myanma Foreign Trade Bank USD ミャンマー	12,292
Myanmar Economic/Bank	5,112,083
KANBAWZA BANK USD ミャンマー	4,724,680
Kasikorn Bank(THB) タイ	0
BCEL KIP 寄付用	309,384
WING Cambodia	14,583
ASIaweiluy Cambodia	53,849
KANBAWZA BANK MMK	160,762
Foreign Trade Bank Cambodia	36,639
セントラル短資FX(株) 円預金	8,551,268
セントラル短資FX(株) ドル預金	2,447,800
Myanma Foreign Trade Bank JH	0
ミャンマー国営銀行	0
棚卸資産	
書籍	1,021,247
前払費用	
海外家賃	1,757,868
立替金	
社会保険料立替金	229,484
仮払金	
海外事業仮払金等	198,853
未収金	
医療支援活動に係る費用弁償代等	33,058,010
3月 決済分寄附金	11,023,785
パティエ土地売却代	36,717,000
流動資産合計	1,099,337,471
2. 固定資産	
(1) 有形固定資産	
建物	
ミャンマースタッフ宿舎	4,671,398
ミャンマースタッフ宿舎 追加工事	363,232
カンボジア病院建設	35,701,068
カンボジア小児科医療センター	67,820,042
カンボジア病院 外来待合室	1,606,339
カンボジア病院 スタッフハウス	32,824,600
カンボジア病院 スタッフハウス 会談/手摺工事	454,738
カンボジア病院 AAMC病院給食センター	29,897,637
カンボジア人 スタッフ新宿舎	9,235,085
カンボジア人 スタッフ新宿舎 1階追加工事	2,317,496
建物付属設備	
カンボジア病院 変圧器等	2,281,145
カンボジア病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	509,467
カンボジア病院 患者用導線屋根	304,981
カンボジア病院 変圧器(増設)	2,934,545

カンボジア病院	AAMC病院給食センター 厨房機器一式	18,374,665		
カンボジア病院	電気ケーブル Phase1.2	1,202,459		
カンボジア病院	電力制御システム Phase1.2ケーブル	263,496		
カンボジア病院	発電機室	769,819		
カンボジア病院	女子寮屋上 断熱材設置工事	261,807		
カンボジア病院	宿舎No.2 排気ダクト設置工事	81,672		
カンボジア病院	病室改造工事	690,357		
カンボジア病院	洗濯場改造工事	571,141		
東京事務局	パーティション	305,287		
構築分				
カンボジア病院	舗装工事等	610,223		
カンボジア病院	浄化槽埋設工事・掘削工事	1,468,149		
カンボジア病院	外来待合室前 舗装工事	243,422		
カンボジア病院	貯水タンク4台設置工事	491,265		
カンボジア小児病棟前	コンクリート道路工事	241,227		
カンボジア病院	太陽光発電システム装置 DREAM Train	824,209		
カンボジア病院	スタッフハウス 給水タンク	306,613		
カンボジア病院	発電機 Phase1.2 停電時使用	3,620,943		
カンボジア病院	駐車場工事	213,781		
カンボジア病院	貯水タンク5,000L	90,673		
カンボジア病院	排水管の設置(病院からの排水)	236,680		
カンボジア病院	排水管の設置(病院Phase1前)	252,258		
カンボジア病院	phase1 舗装道路	925,272		
カンボジア病院	浄水器 ハイブ追加設置工事 behind phase2	132,500		
カンボジア病院	浄水器 behind phase2	544,707		
DREAM Train	フェンス (図書館裏から事務所裏)	393,345		
DREAM Train	フェンス (事務所裏から女子棟裏)	149,918		
DREAM Train	フェンス (フットボール場)	393,542		
DREAM Train	貯水タンク 図書館設置	154,541		
DREAM Train	フェンス (隣接した別の養育施設との間)	326,833		
車輛運搬具				
	車両 10台	6,254,842		
工具器具備品				
	医療器具等	24,853,073		
土地				
	ミャンマー	406,029		
建設仮勘定				
	カンボジア病院	14,667,770		
有形固定資産計		271,244,291		
(2)無形固定資産				
借地権				
	ミャンマー土地賃借権	17,517,610		
無形固定資産計		17,517,610		
(3)投資その他の資産				
敷金				
	東京事務所	354,200		
	カンボジア事務所	748,902		
	カンボジア病院 宿舎	676,080		
	カンボジア病院 宿舎	267,096		
	ラオス事務所	88,280		
保証金				
	資機材購入保証金	100,060		
	東京事務所 保証金等	402,904		
投資その他の資産計		2,637,522		
固定資産合計			291,399,423	
資産合計				1,390,736,894
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金				
	給与・医療支援活動に係る費用等	39,585,705		
預り金				
	源泉所得税等	4,513,038		
未払法人税等				
	2021年度法人税住民税事業税等	70,000		
	2021年度未払消費税等	115,600		
流動負債合計			44,284,343	
2. 固定負債				
	固定負債合計	0	0	
負債合計				44,284,343
正味財産				1,346,452,551

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人 ジャパンハートの 2021 年(令和 3 年)4 月 1 日から 2022 年(令和 4 年)3 月 31 日までの第 14 期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2022 年(令和 4 年)5 月 30 日

特定非営利活動法人 ジャパンハート

監事

大橋秀夫 

I. 事業計画 / 海外

海外事業本部

1. 事業推進

- ・カンボジア:新病院プロジェクトを主導し、現地と連携の上実施する。
- ・ミャンマー&ラオス:新規事業の戦略策定、実施を、現地に伴走する形で進めていく。
- ・デジタルデバイスを利用した医療活動の計画及び、展開をし、新たな医療活動の形を実現する。

2. 海外事業周りの総務関連

- ・職員、物品、臨床のデータベースを再度整理し、実際の活用が出来る様にする。

3. 組織構築

- ・海外事業部全体の連携強化の施策の策定と実施を行う。昨年度から実施している半期毎の部長会議は継続して行い、各事業部の知恵や経験を集結させ、海外事業全体に還元していく。
- ・海外職員のロイヤリティ向上の施策の策定と実施を行い、団体の Vision、Mission、Value を現地職員にまでさらに落とし込んでいく。
- ・明確な採用計画を立て、それに沿って実際の採用を行う。

4. 広報/ファンドレイジング

- ・獲得可能な助成金や寄付プログラムの一覧を引き続き作成、更新していき、必要な時に必要な資金 が獲得できる準備を整える。
- ・対米の寄付プログラムの充実化を図る。既に登録済みのサイト各種の更新を再度行い、継続的なサイト更新をすることで、寄付の獲得に繋げる。

ミャンマー

1. 医療活動

1)ワツチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・現地の情勢を考慮しながら、日本人医療者を派遣しての医療活動を再開することで調整中。
- ・ミャンマー人医療スタッフのみでの手術活動も継続する。
- ・モバイルクリニック(遠隔地往診)をミャンマー各地で年 20 回を目標に行い、医療アクセスの向上を図る。

2)その他の医療活動

- ・ミャンマー国内情勢をみながら、口唇裂・口蓋裂総合治療事業から専門家の派遣を再開する。

3)小児心臓病サポート活動

- ・ミャンマー国内情勢をみながら活動再開を検討する。

4)透析サポート活動

- ・施設建設以外の可能性も探るべく、多角的な検討を実施する。

2. ミャンマー医療人育成事業

- 引き続き新倉会の協力により、奨学生 9 名(医学生 4 名・看護学生 5 名)に支援を行う。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・昨年度、新型コロナウイルスの影響により入所が叶わなかった新規児童の受入れを行なう。また、今後増加が予想される貧困家庭の児童の入所希望の聞き取りを一年を通じて継続。なお、新学期開始後の児童の転入は原則として認められないため、緊急性の高い場合のみ施設受入を行う。
- ・昨年度より強化しているオンライン学習・イベントの、量・質の向上を図る。なお、新たに、キャリア教育・プログラミング教育・知育・韓国語学習イベントなど実施予定である。
- ・教育担当スタッフや日本語専任の講師を雇用を強化し、より体系的に学習ができ、かつ情勢に左右されない持続可能な学習環境を整える。
- ・情勢が安定次第、長期ボランティア・インターンを3名確保し、看護業務・体育指導・語学指導などをご担当いただく。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1年間の医療マッサージトレーニングプログラムを再開する。

3) サイクロン孤児支援活動

23名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

カンボジア

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター

新型コロナウイルスへの感染予防対策を徹底しながら、当院を拠点に医療活動を継続する。カンボジア国内での感染は終息に向かいつつあり、今年度は活動を順次再開して行く。専門医チームの派遣やボランティアの受け入れなども再開する。また、コロナ禍以前の活動に戻していくと共に人材の確保・教育や病院業務の仕組化などソフト面での病院改革にも注力する。

2) 提携病院での活動

新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら、チューンプレイ病院、ロカカオン病院など、病院周辺3州での診療や手術活動を再開していく。また「医療の届かない場所に医療を届ける」べく新たな提携先の病院の開拓も行っており、トボンクモン州やクラチエ州でも活動を開始していく。パティエ病院、チャムカレー病院等での看護師長期滞在、近隣小学校での健康診断活動の継続、訪問看護活動、病院近辺の保健センターでの母親学級を行っていく。

3) 新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為にプノンペンにチャリティのこども新病院を建設する。プノンペンに建設する目的は、1、人材確保 2、中央病院との連携 3、インフラの3点を強化したい。ジャパンハートこども医療センターとの協業を前提とし、新病院のコンセプトを作成し、準備を開始。総予算は15億円程となる予定で、大型の費用を要するため現在助成金や寄付金を募る為の計画も同時に進行している。

2. 医療学生 奨学生支援活動

新型コロナウイルス感染拡大の影響で入学試験等未定の状況であるが、開始され次第事業を進捗させる。新年度の奨学金候補生の選定は終了している為、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

引き続きジャパンハートこども医療センターの認知度を高めることを通し、小児がんや先天性疾患の早期発見につながる啓発を行う。カンボジア国内で活動する NGO との連携を強化し、患者の紹介や情報交換からよりスムーズな医療活動を実現していく。政府機関との連携も強化する。

2)ファンドレイジング

軌道に乗り始めたカンボジア国内での企業や個人への寄付支援、広報転換に積極的に取り組む。新型コロナウイルス感染拡大も終息に向かいつつある為、企業訪問や個人支援への働きかけも積極的に行っていく。

ラオス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

延長をした MOU のもと、6月にラオスミッションを実施する。ミッション終了後、ウドムサイ県病院、および関係省に対して MOU の完了を報告するために活動内容、資金について 7 月末ごろまでにレポートを作成する。その後レポートに基づき、総評が行われ、MOUの完了となる。(10 月頃の見込み)MOU の完了と並行して、次期 Phase2 の MOU も提出する。通常締結には半年から 1 年を要する。年度内に再度ミッションができるかどうかは未定だが、締結後にミッションをすぐ実施することができるよう、締結の時期を見極めつつ必要な準備を進める。

2)個人診療

2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。
1 名の斜顔裂の患者については、手術方針と予定を明確にさせる。
現状、今年度内の大きな手術の予定は無い。

3)パークグム郡病院での手術室稼働プロジェクト

コロナ患者の受け入れ状況が落ち着き次第、先方への連絡を再開する。これまで活動にご協力いただいた病院の医療者に対し、ヒアリングの機会をいただけるよう打診する考え。

4)小児診療・手術プロジェクト

7 月以降、ビエンチャンにあるカウンターパートとなり得る病院を訪問し、病院選定と症例を定める。また日本のカウンターパートとなる病院の選定も進める。年明けの MOU 提出を目指す。

5)広報・ファンドレイジング活動

ラオス国内での Facebook や Youtube を使った広報活動を継続する。

地域医療支援・国際緊急救援事業

2022 年度は、各既存事業の強化・地域医療支援分野での新規事業の立ち上げ・組織体制強化を予定している。

1. 事業共通

広報人員を採用予定。事業部として広報的発信の強化を行う。

2. 国際緊急救援事業

1. 組織内部強化

外部災害関連研修受講等によるメンバー自身の専門性向上と、バックオフィス体制強化

2. 自然災害時緊急救援

a. 人的支援

緊急時の災害内容に合わせた初動持参備品等の整備と内容向上

b. 物的支援

2021年2月にアクセンチュア株式会社と共同開発した寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」の自然災害時緊急版として、事前に用意して全国に配置した要配慮者(高齢者/乳幼児)向け支援パッケージを、緊急時にアプリ上でマッチングして迅速に配布するための仕組みを構築する。7月に富山県にてトライアルを実施し、8月ローンチ予定

3. 新型コロナウイルス感染症緊急救援

a. 人的支援

継続して全国的なニーズに対し対応を進めていく

b. 物的支援

2021年度に開始した、コカ・コーラ財団からの支援を受け全国に新型コロナウイルス感染症対策として感染防護具(特にアイソレーションガウン及び N95 マスク)を寄贈するプロジェクトを9月末まで継続

c. 濃厚接触者隔離施設

2021年11月に開始した、沖縄県宜野湾市に濃厚接触者隔離施設を9月末まで継続

d. 感染対策指導

2021年11月に開始した、濃厚接触者隔離施設でのセミナーを9月末まで継続

4. iER ボランティア登録制度

a. 新規登録数

各回実地20名+オンライン30名の定員にて開催予定

・第9回研修:7月2日(土)~3日(日)に東京会場+オンラインで開催予定

・第10回研修:12月佐賀会場+オンラインで開催予定

b. 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年2回(計4回)実施予定

・医療ステップアップ研修:2022年8月、2023年2月開催予定

・ロジスティクスステップアップ研修:2022年10月、2023年3月開催予定

5. 国内外ネットワーク作りと強化

a. 自治体との協定

福島、兵庫など新型コロナウイルス感染症支援で連携した自治体との協定を進める

b. 学会発表

2023年3月日本災害医学会での発表を予定

3. 地域医療支援

1. RIKA Job

1.1. 派遣者数の増加

本年度から各病院から取り寄せた必要看護師人数を適宜アップデートしつつ、派遣者数の拡大を目指していく。そのための募集強化方法として、以下のような施策を実施

- ・RIKA Job 説明会の年 4 回開催
- ・RIKA Job 個別相談会の適宜開催
- ・JH 本体 HP と RIKA JobHP との導線整理や広告展開

1.2. 病院との関係強化

病院側のコミットメントを更に促すため、定期的な情報提供や広報協力、派遣者フォローなどのタスクを設定し、協働を促進する

1.3. 派遣者フォロー

- ・研修生: 研修部との連携のもと、病院活動期間の充足を計る
- ・RIKA Job 派遣者: 初月と最終月のフォロー面談の実施など、派遣期間延長に繋がるような派遣者とのコミュニケーション機会を創出していく

2. 佐賀事務所

伊万里事務所から佐賀市内に事務所を移転し、人員を最大 2 名雇用することで、佐賀県内での緊急救援事業拠点強化や RIKA Job 事業展開等を実施予定

3. 沖縄新規事業

濃厚接触者隔離施設の 9 月末クローズ後、沖縄県内で地域医療を支援するような在宅領域での事業展開を予定

II. 事業計画/ 国内 SmileSmilePROJECT

小児がんと向き合うご家族や医療関係者に活動が浸透してきており、依頼件数や協賛企業の問い合わせは年々増加傾向にある。提供できる質と数のバランスを考え、新規スタッフの雇用と自己研鑽の機会の確保に取り組む。まだ連携できていない医療機関との関係構築、サポーターのケアなど内向きの取り組みを意識的に増やし、組織力を強化していきたい。

1. スタッフ雇用と自己研鑽の機会の確保

依頼増加に伴い、スタッフ雇用(2名)を目指してリクルーティングをしていく。

年々、医療的ケアの必要度が高いお子さまの帯同が増えており、知識や技術のアップデートをすることでより安心な時間をご家族に提供できると考えるため、現在のスタッフには小児がん関連の研修会参加など自己研鑽の機会を積極的に作る。

2. 個別企画への対応

- ・個別企画は感染症の動向に配慮しながら、ニーズに合わせて実施する。
- ・ボランティア説明会を定期開催し、活動参加してもらえる登録サポーター150名を目指す。

3. 広報活動

- ・2020 年度に改定予定であったパンフレットだが COVID-19 の影響と東京事務局所在地変更、在庫多数のため延期となっており、今年度改定を行う。
- ・ポスター制作を行い、小児がん拠点病院への活動認知と連携を強化する。
- ・講演会依頼を受けることが多かったが、今年度は自ら提案することで啓蒙活動としたい。

・HP で宿泊施設の情報を掲載し、私たちが帯同しないご家族の旅行にも広く情報を共有する。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

国際看護師研修・助産師研修

1. 事業部自体の目的をアップグレード

全ての人が生まれてきてよかったと思える社会を、看護師とともに実現するために、看護師の能力開発や社会進出をサポートする事業目的を置き、更に事業推進をはかっていく。

2. 看護師の能力開発を目的とした研修内容へのアップグレード

主力の事業である看護師さんを対象とした研修の「国際看護研修」は、「グローバル看護師人材開発/実践コース」に名称を変更。看護師が持つ能力の開発、最大化を目的に研修内容を見直し、ジャパンハートのミッションを体現できる人材の育成を行う。開発したい能力をより具体化し、外部講師による研修や、各活動地のスタッフと連携して研修内容を充実していく。

3. 研修生のサポート体制の強化の継続

コロナ禍により海外実習地へ渡航できない研修生のモチベーション維持のため、課題意識をもって国内活動を継続できるよう関わっていく。海外出張や国内での事前研修における対面のサポートの他、オンラインによるコミュニケーションも積極的に取り入れ、研修生のサポートにコミットメントする。また、国内外問わず各活動地のスタッフとも情報交換を定期的に行い、研修生のサポートを組織全体で行えるようにする。

4. スタッフナースの増加

各現場と連携し、海外研修後期には研修生の目標達成のための研修地を提供。研修終了後にスタッフとして活動できる人材を育成する。今後はカンボジアだけではなく、ラオスやミャンマー、iER や Smile Smile PROJECT でも活躍できるスタッフナースの増加を目指したい。また、彼らが手本となり、後世の育成に積極的に携わる循環を作る。

5. 研修修了生との連携

研修を修了した看護師は、海外の医療現場に限らず、日本の医療現場、また教育現場において講義・講演など幅広い活動を行っている。そこで、研修修了生とさらに連携して団体主催の交流会や説明会で情報発信を行っていくことで、日本の看護業界への波及を期待したい。

Ⅳ. 広報・ファンドレイジング事業

広報活動

1. 支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1) 各種アワードへの応募

昨年度団体として受賞した日本政府主催の第5回ジャパン SDGs アワード、吉岡秀人最高顧問が個人として受賞した第69回菊池寛賞受賞といった各賞は、団体の社会的信用向上に大きく向上、寄付問合せだけでなく、政策決定者、主要メディアの注目を集め、ジャパンハートの社会価値向上に大きく貢献した。アフターコロナを見据え、団体の理念は活動を周知が望まれる中、今年度も各種アワードへの応募を継続し、団体の社会価値向上に努めていく。

2)ウェブサイトの運用と情報の充実化

団体のオウンドメディア(webサイト、各種 SNS 等)についても、アクセス解析による PDCA を行いサイトを訪れる方に必要な情報が提供できるよう、引き続き充実化を図る。コンテンツについても、支援者のペルソナ像を把握し、きめ細かいコンテンツ開発を行う。個人支援者に加え、遺贈・法人といった領域において、専門性のあるコンテンツも追加していく。国際紛争の勃発を踏まえ、サイバーセキュリティ対策も強化する。

3)WEB 広告の活用

有償・無償含めた WEB 広告を利用した効果的な広報活動を引き続き強化する。またデジタルでの情報収集はするものの、決済はオフラインを好むシニア世代への配慮として、事務局電話対応の案内を掲示するなど対応を開始している。

4)メディアへの露出を強化

吉岡秀人ほか、国内外の活動地で活躍するスタッフのタレントを発掘し、オウンドメディア等で発信し社会価値化を進め、メディア露出等に繋げる。人材の層の厚さを周知することで、団体としての安定性を訴求する。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーターの増加

WEB 広告の活用やコミュニティ内のコンテンツ充実、及びアクセス解析によるPDCA等により、継続寄付者の増加を図る。SNS、メールマガジンは支援者のペルソナに基づいたきめ細やかな発信を行い、退会者の減少を目指す。

2. 法人へのアプローチ

1)2022年4月の東京証券の上場基準が変更され、上場企業は社会貢献を含むコーポレートガバナンスの開示強化がさらに必要になった。またESG投資など企業フィランソロピー活動が活発化する傾向にある。2021年度に受賞したジャパン SDGs アワードによる団体の社会価値向上を法人支援に繋げるべく、開拓をおこなっていく。
2)社会貢献への取り組みに関心の高い企業との新規協働を促進するために、法人向けサイト、法人向けメールマガジンの発行を企図。他社事例集のダウンロードなどで協働の取り組みの啓発を行うとともに、ダウンロードによる潜在層情報取得を行い、個別相談の機会創出を図る。

3. ふるさと納税の継続

スキーム構築、返礼品等の検討により、昨年度と同水準の金額および件数獲得を目指す。

5. 遺贈・相続

団体オウンドメディアでの情報充実化、遺贈特集等への積極的広告出稿を行うとともに、専門性を持つ遺贈コンサルタントの伴走支援を受け、受付体制を整えつつ、土業、信託銀行等との関係性を強化する。

支援者サービス

1.支援者さまとのコミュニケーションの強化

支援者さまへのアンケートやヒアリングなどによるニーズの把握を行い、コミュニケーションをより適切なものにする。継続してご寄付を頂いている支援者さまとのコミュニケーションの場の種類を増やし、参加された方の満足度を向上する。

2.日常業務のクオリティの向上

支援者様からの疑問や不安を解消するため、メール、ホームページ、資料のご案内を分かりやすいものに改

善する。

お問い合わせ対応、領収書発行、活動報告の発信、感謝状の贈呈などの日常業務における更なる質の向上を目指す。

V. 管理・経営

管理部

1. 採用活動

10人以上の採用を完了し、事業推進に適した人数のスタッフを確保する。また、採用に関するデータ分析を行ってPDCAを回し、持続性のある採用活動及び、計画を行う。

2. 労務管理

職員が働きやすく且つ法律に則った形に規則/制度を整える。

具体的にはフレックス制度の導入、休日出勤制度の改定、就業規則並びにその他規程類の整理・改定を行う。

3. 職場環境の改善

360度評価制度の導入と、1on1ミーティング並びに、/OKR/Key Result 制度の振り返りおよびアップデートを行い、職員が正しく評価され、モチベーション高く仕事出来る環境の整備を行う。

加えて、職員のモチベーションを向上させる新たな施策を1つは実施する。

(例:職員1人1人がアツい思いを語る/共有する場を作る)

4. 会計

クラウド会計の最大活用および定着化

経営戦略室

1. 既存の枠組みに捉われない新たなアクション

・各事業の目指すべき質と量の再言語化

新型コロナウイルス感染症によって各事業の在り方が変わる中で、各事業が今後の目標の質と量の目標について再度策定する。

・既存の価値提供方法の見直し

上記で策定した目標を達成するための価値提供方法を再策定する。

2. 人財投資/確保

・未来を創出できる人材の獲得

事業の現状維持ではなく、更なる事業団体の発展のために将来的な管理職候補をはじめとして、必要な人員の採用を行う。具体的には待遇改善、働きやすい職場整備、多様な働き方が行える組織の構築等を行う。

第4号議案 2022年度 活動予算書 (案)

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額(税込)	前年度決算額(税込)
経常収益		
受取会費	15,340,000	18,709,007
受取寄附金	765,990,963	702,610,172
受取助成金等	24,435,200	204,885,725
事業収益	21,984,000	34,977,601
その他収益	0	26,235,989
当期経常収益合計 A	827,750,163	987,418,494
経常費用		
【事業費】	672,013,852	447,520,303
人件費	275,283,763	165,790,811
1 顧問・アドバイザー料	520,000	600,000
2 業務委託費	12,434,688	42,730,299
3 通信運搬費	6,242,653	4,481,559
4 医療器具・備品費	134,445,000	566,532
5 医療支援費	60,773,016	28,811,705
6 学業支援費	10,540,000	6,963,705
7 子ども支援費	20,148,920	18,874,500
8 医療者育成費	10,004,820	3,180,577
9 旅費交通費	32,766,482	33,596,061
10 水道光熱費	7,895,993	6,043,174
11 広告宣伝費	16,281,890	31,912,118
12 研修費	2,435,000	201,124
13 会議費	355,899	370,986
14 接待交際費	153,000	105,018
15 消耗品費	9,324,896	18,582,980
16 食材費	10,271,070	8,375,640
17 新聞図書費	609,000	29,006
18 印刷製本費	3,434,944	2,340,349
19 セミナー・イベント開催費	279,000	125,680
20 海外スタッフ開催費	0	0
21 工事・修繕費	6,108,000	1,432,035
22 賃借料	0	5,258
23 地代・家賃	12,022,000	10,649,468
24 車両費	4,441,642	2,909,928
25 保険料	3,202,260	2,267,518
26 諸謝金	160,000	585,579
27 諸会費	235,000	158,819
28 リース料	0	192,700
29 支払手数料	7,829,779	1,231,792
30 雑費	265,000	617,632
31 寄附金支出	0	0
32 租税公課	550,137	835,553
33 書籍販売原価	0	422,509
34 減価償却費	23,000,000	50,504,988
70 寄付受贈	0	2,024,700
【管理費】	35,811,550	45,169,380
58 人件費	13,729,800	21,929,124
35 業務委託費	3,500,000	3,361,019
36 通信運搬費	850,000	1,452,933
37 水道光熱費	360,000	332,693
38 旅費交通費	112,000	42,332
39 研修費	0	0
40 会議費	5,000	2,473
41 接待交際費	0	0
42 消耗品費	1,500,000	2,137,581
56 新聞図書費	0	0
43 印刷製本費	360,000	420,166
44 工事・修繕費	0	199,500
45 賃借料	0	0
46 地代・家賃	4,675,440	4,432,200
57 保険料	55,310	63,020
47 租税公課	60,000	50,678
48 諸会費	285,000	125,000
49 リース料	40,000	117,648
50 支払手数料	9,700,000	9,238,442
80 広告宣伝費	0	165,000
51 雑費	77,000	571,059
52 減価償却費	0	527,342
53 為替差損	502,000	0
54 雑損失	0	1,170
55 租税(消費税)	0	0
当期経常支出合計 B	707,825,402	492,689,683
当期経常増減額 A-B	119,924,761	494,728,811

第5号議案

役員改選

新役員候補者

(敬称略)

理事(4名)

理事 吉岡 春菜(よしおか はるな) (重任)

理事 神白 麻衣子(こうじろ まいこ) (重任)

理事 西井 敏恭(にしい としやす) (重任)

理事 榊 淳(さかき じゅん) (新任)

※株式会社一休 代表取締役社長

監事(1名)

監事 大橋 秀夫(おおはし ひでお) (重任)

<新任理事略歴>

榊 淳(さかき・じゅん)

株式会社一休の代表取締役社長。慶應義塾大学大学院理工学研究科修了後、第一勧業銀行(現みずほ銀行)にて金融工学を駆使したデリバティブ取引等のプライシングを担う。2001年に米国スタンフォード大学大学院にてコンピュータ・サイエンスを学んだ後、約6年間コンサルタントとして活躍。2013年に株式会社一休に正式入社し、2016年2月に代表取締役社長に就任。2021年4月からヤフー執行役員トラベル統括本部長を兼務